

宮澤智士編

『町並み保存のネットワーク』

大分県下では早くから「ムラおこし」が叫ばれ、町並み保存も杵築・臼杵・佐伯・竹田・日田などで、保存・整備の動きがみられるが、いずれも今一步の感をまぬかれない。A5判・三二二頁の本書は、町並み保存に努力されている人、伝統的町並みを散策しようとする人には、よい参考書となるであらう。

本書は全国に二六地区ある「伝統的建造物群保存地区」(町並み)の全地区を巻頭六四ページ一三六点のカラー写真で紹介している。更に各地で実際に町並み保存事業に携わっている人によって、各地区の歴史と風土、建物の特徴と伝統、町並み保存整備と住民とのかかわりなどを紹介している。ガイドブックとしても役立つよう、「自分で歩ける町並みイラストマップ」を掲載しているのは、親切である。

しかし、何より力強いのは、「集落町並みのみかた十一章」として、文化庁文化財保護部建造物課の主任文化財調査官の宮澤智士氏が執筆、町並みをただ見るだけでなく、建物と景観の中から町並みを読むポイントが、やさしく述べられていることである。町並み保存が究極的には、「住民の心」であることを思う時、関係者の必読の十一章であらう。

また本書は、市町村長や行政担当者をもっとも知りたい「保存整備のポイント」「保存制度」などについても一章が設けられ、巻末の諸資料と共に、実務に役立つ著書であるといえよう。発行所は第一法規、定価一三〇〇円の本書は、各地の書店に置かれている。(後藤 正二)

新刊紹介

高原三郎著 『大分の地名』

この度、本会々員の高原三郎氏が『大分の地名・続Ⅲ大分の神々』(A5版・三五七ページ)を刊行された。

これまでの『大分の神々』『大分の鳥居―続大分の神々』

会告

大分県地方史料叢書(4)

縣治概略 (I)

縣治概略 (II)

縣治概略 (III)

大分県成立以来の布告・達を集大成した

県章創期を知る基本史料

(頒価 I・II 会員二五〇〇円、会員外三〇〇〇円・送料共)
 (頒価 III 会員一五〇〇円、会員外二〇〇〇円・送料共)

発行者 大分県地方史研究会

「大分の雨乞―続々大分の神々」に続く自費出版である。素晴らしい研究意欲で、ただ驚嘆の一言に尽きる。

本書は一〇部構成となっている。第一部は「神社名地名」で、以下「城下町における侍町の丁、番丁考」「県下のユニークな地名考」「郷土宇佐市(八幡)森山の七八小字名考」「日本の鯨地名と県下の鯨墓」「田地名若干」「ユニークな南島の地名考」「北海道のアイヌ語地名若干」「台湾の地名考」「世界の漢字当て字地名」と多様で幅広い構成となっている。しかし、本書の中心は第一部の神社名地名にあって、そのみで一八〇ページに及んでいる。

「地名」も文化財であり、「地名」の保存と研究は、これからの大きな課題である。近刊の坂本太郎博士著『日本歴史の特性』(講談社学術文庫・七八〇円)でも「文化財と史跡」を論じては、最後に地名の保存を訴えられている。高原三郎氏の新著『大分の地名』(二五〇〇円)を一人でも多くの方に読んでいただきたいものと、ここに紹介するものである。

(後藤 正二)